

『2024年度版 地方上級 専門試験 過去問500』訂正表

(初版第1刷用)

●45 ページ No.44 解説1 2~3行目

(誤) 用途の限定されているものが法定外特別税である。

(正) 用途の限定されているものが法定外目的税である。

●426 ページ No.425 問題と解説

正しくは、下記となる。

問題

小国を仮定したマンデル=フレミング・モデルに関する次の記述のうち、妥当なものはどれか。

- 1 固定為替相場制の下で、拡張的な財政政策は利子率を上昇させるので、投資が抑制される。一方で、外国から資本が流入する結果、為替レートには増価圧力が生じるため、貨幣供給の増加が必要となる。
- 2 固定為替相場制の下で、緊縮的な財政政策は利子率を下落させるので、投資が刺激される。一方で、外国へと資本が流出する結果、為替レートには減価圧力が生じるが、貨幣供給を変化させる必要はない。
- 3 変動為替相場制の下で、金融緩和政策は利子率を下落させるので、投資が刺激される。一方で、外国へと資本が流出する結果、為替レートが減価するため、貨幣供給の増加が必要となる。
- 4 変動為替相場制の下で、金融引締政策は利子率を上昇させるので、投資が抑制される。一方で、外国から資本が流入する結果、為替レートが増価するため、貨幣供給の減少が必要となる。
- 5 固定為替相場制であっても変動為替相場制であっても、財政政策は国民所得に影響を与えることはできないが、金融政策は国民所得に影響を与えることができる。

解説

本問はマンデル=フレミング・モデルに関する文章題であるが、直接的には国際資本移動が自由であるか否かに関する言及がない。しかし、選択肢においては、資本移動が存在することが前提とされているため、最も一般的なケースである資本移動が完全自由なケース、すなわちBP曲線が水平なケースを想定するのが妥当である。

- 1 正しい。固定為替相場制の下での拡張的な財政政策は、利子率の上昇と外国からの資本流入をもたらすが、この際、本国通貨が買われて外貨が売られる結果、為替レートに増価圧力が生じる。ここで、固定相場を維持するためには、中央銀行による貨幣供給の増加が必要となる。
- 2 固定為替相場制の下での緊縮的な財政政策は、利子率の下落と外国への資本流出をもたらすが、この際、本国通貨が売られて外貨が買われる結果、為替レートに減価圧力が生じる。ここで、固定相場を維持するためには、中央銀行による貨幣供給の減少が必要となる。
- 3 変動為替相場制の下での金融緩和政策は、利子率の下落と外国への資本流出をもたらすが、この際、本国通貨が売られて外貨が買われる結果、為替レートが減価する。しかし、変動為替相場制であるから、中央銀行は為替レートを維持する必要がないため、貨幣供給を変化させる必要もない。
- 4 変動為替相場制の下での金融引締政策は、利子率の上昇と外国から資本流入をもたらすが、この際、本国通貨が買われて外貨が売られる結果、為替レートが増価する。しかし、変動為替相場制であるから、中央銀行は為替レートを維持する必要がないため、貨幣供給を変化させる必要もない。

5 国際資本移動が完全に自由な場合、固定為替相場制の下での財政政策は国民所得に影響を与えることができるが金融政策は国民所得に影響を与えることはできない。一方、変動為替相場制の下での財政政策は国民所得に影響を与えることはできないが金融政策は国民所得に影響を与えることができる。

以上

株式会社 実務教育出版